

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	薬理学			担当教員名	稲津 正人				
実務経験等	大学医学部教授として薬理学の教育に従事し、基礎医学の教育研究の経験をもとに、当該科目の教育を行う。										
年次	3学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト10版、専門基礎分野第3章「薬物と検査の基礎知識」1「医薬品の基礎」、2「重要な医薬品」P200～P210までを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を確認する。										
到達目標	薬理作用や薬物動態に関する理解を深め、薬剤に関する正確な知識を身に付けさせることを目的とする。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	薬物総論					9	一般薬について				
2	薬物の体内動態					10	一般薬について				
3	薬物の投与経路					11	一般薬について				
4	薬物の有害作用					12	薬事法				
5	体液について					13	薬事法				
6	輸液について					14	中毒				
7	自律神経系					15	まとめ				
8	心肺停止と薬物投与										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	検査診断			担当教員名	吉田 和市				
実務経験等	検査診断では、臨床全身麻酔や鎮静法、救急蘇生の実践、循環薬理学の基礎研究の経験を活かし、基本的な患者さんの診断法を主に検査学に焦点を当て講義する。具体的な目標は、呼吸、循環、代謝、麻酔を中心に検査診断学の基礎を理解させることである。また、日本蘇生学会蘇生法指導医としての実績を背景に、救急救命科士における医療事故の防止と救急処置についても理解を深めるようにしたい。										
年次	3学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト10版、専門基礎分野 第3章「薬物と検査の基礎知識」3「検査」P211～P214までを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	医療機関で行われる「検査」や「放射線」について総合的に理解させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	検査診断総論・生理機能検査					9	細菌培養検査				
2	放射線の基礎					10	感染とその予防				
3	画像診断					11	消毒・滅菌Ⅰ				
4	血液検査Ⅰ					12	消毒・滅菌Ⅱ				
5	血液検査Ⅱ					13	消毒・滅菌Ⅲ				
6	血液検査Ⅲ					14	感染症対策				
7	血液検査Ⅳ					15	まとめ				
8	血液検査Ⅴ										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	公衆衛生学			担当教員名	黒田 勝美				
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、社会と医療及び公衆衛生の基本的な考え方を理解させ、国民の健康及び医療体制、各種保険事業、及び法規について理解させる。										
年次	3学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト10版、基礎分野 第1章「社会と医療」・第2章「健康と社会保障」 P4～P52までを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	社会と医療及び公衆衛生の基本的な考え方を理解させ、国民の健康及び医療体制、各種保険事業、及び法規について理解させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	人間と人間生活					9	保健医療制度の仕組みと現状				
2	科学的思考の基礎					10	保健医療制度の仕組みと現状				
3	生命倫理と医の倫理					11	社会保障と社会福祉				
4	保健医療制度の仕組みと現状					12	社会保障と社会福祉				
5	保健医療制度の仕組みと現状					13	社会保障と社会福祉				
6	保健医療制度の仕組みと現状					14	社会保障と社会福祉				
7	保健医療制度の仕組みと現状					15	まとめ				
8	保健医療制度の仕組みと現状										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	環境障害			担当教員名	黒田 勝美				
実務経験等		消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、様々な環境変化が傷病者に与える影響とそれに伴う反応と各種疾患の対応について理解・習得させる。									
年次	3学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要		救急救命士標準テキスト10版、専門基礎分野第7章 急性中毒・環境障害のうち、3「溺水」から8「その他の環境障害」P833～P839までを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。									
到達目標		様々な環境変化に伴う各種の疾患とその対応について理解させる。									
使用教材		救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税					評価方法		筆記		
授業内容											
1	異物					9	高山病				
2	溺水					10	減圧症				
3	熱中症					11	酸素欠乏症				
4	熱中症					12	凍傷				
5	偶発性低体温					13	紫外線による障害				
6	放射線障害					14	VDT障害など				
7	放射線障害					15	まとめ				
8	高山病										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	急性中毒			担当教員名	稲津 正人				
実務経験等	大学医学部教授として薬理学の教育に従事し、基礎医学の教育研究の経験をもとに、当該科目の教育を行う。										
年次	3学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数		区分	必修
授業概要	救急救命士標準テキスト10版専門基礎分野第7章 急性中毒・環境障害のうち、1「中毒総論」2「中毒各論」P788～P807までを対面授業で実施し、16回目に筆記試験で効果を測定する。										
到達目標	中毒物質による障害の発生機序、病態、症状、所見等について理解させ、観察、評価、処置及び搬送に関する知識を系統的に理解させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		筆記		
授業内容											
1	中毒総論					9	家庭用品中毒				
2	中毒総論					10	乱用薬物				
3	中毒各論 医薬品中毒					11	中毒総論のまとめ				
4	農薬中毒					12	中毒総論のまとめ				
5	工業薬品中毒					13	医薬品中毒からガス中毒までのまとめ				
6	ガス中毒					14	アルコール中毒から乱用薬物までのまとめ				
7	アルコール中毒					15	ミニテスト				
8	自然毒中毒										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(前期)①			担当教員名					
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年・2年次に習得した知識・技術が確実に救急現場で迅速・的確に実施することをできるように身につけさせ、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	3学年	開講期	前期	種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適切かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	気道確保想定訓練					9	内因性疾患想定訓練				
2	気道確保想定訓練					10	内因性疾患想定訓練				
3	気道確保想定訓練					11	外傷想定訓練				
4	薬剤投与想定訓練					12	外傷想定訓練				
5	薬剤投与想定訓練					13	外傷想定訓練				
6	薬剤投与想定訓練					14	外傷想定訓練				
7	内因性疾患想定訓練					15	まとめ				
8	内因性疾患想定訓練										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(前期)②			担当教員名					
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年・2年次に習得した知識・技術が確実に救急現場で迅速・的確に実施することをできるように身につけさせ、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	3学年	開講期	前期	種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適切かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	気道確保想定訓練					9	内因性疾患想定訓練				
2	気道確保想定訓練					10	内因性疾患想定訓練				
3	気道確保想定訓練					11	外傷想定訓練				
4	薬剤投与想定訓練					12	外傷想定訓練				
5	薬剤投与想定訓練					13	外傷想定訓練				
6	薬剤投与想定訓練					14	外傷想定訓練				
7	内因性疾患想定訓練					15	まとめ				
8	内因性疾患想定訓練										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(前期)③			担当教員名					
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年・2年次に習得した知識・技術が確実に救急現場で迅速・的確に実施することをできるように身につけさせ、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	3学年	開講期	前期	種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適切かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	呼吸不全傷病者の対応				9	頭痛傷病者の対応					
2	呼吸不全傷病者の対応				10	腹痛傷病者の対応					
3	循環不全傷病者の対応				11	腰背部痛傷病者の対応					
4	循環不全傷病者の対応				12	失神傷病者の対応					
5	循環不全傷病者の対応				13	ショック傷病者の対応					
6	意識障害傷病者の対応				14	ショック傷病者の対応					
7	意識障害傷病者の対応				15	ショック傷病者の対応					
8	意識障害傷病者の対応										
特記事項											



学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(前期)④				担当教員名				
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年・2年次に習得した知識・技術が確実に救急現場で迅速・的確に実施することをできるように身につけさせ、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	3学年	開講期	前期	種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適切かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	呼吸不全傷病者の対応				9	頭痛傷病者の対応					
2	呼吸不全傷病者の対応				10	腹痛傷病者の対応					
3	循環不全傷病者の対応				11	腰背部痛傷病者の対応					
4	循環不全傷病者の対応				12	失神傷病者の対応					
5	循環不全傷病者の対応				13	ショック傷病者の対応					
6	意識障害傷病者の対応				14	ショック傷病者の対応					
7	意識障害傷病者の対応				15	ショック傷病者の対応					
8	意識障害傷病者の対応										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(前期)⑤				担当教員名				
実務経験等		消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年・2年次に習得した知識・技術が確実に救急現場で迅速・的確に実施することをできるように身につけさせ、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。									
年次	3学年	開講期	前期	種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要		実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。									
到達目標		習得した知識を病院前救護において適切かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。									
使用教材		救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税					評価方法			実技	
授業内容											
1	外傷の現場活動				9	胸部外傷傷病者の対応					
2	外傷の現場活動				10	胸部外傷傷病者の対応					
3	頭部外傷傷病者の対応				11	腹部外傷傷病者の対応					
4	頭部外傷傷病者の対応				12	腹部外傷傷病者の対応					
5	顔面・頸部外傷傷病者の対応				13	骨盤外傷傷病者の対応					
6	顔面・頸部外傷傷病者の対応				14	四肢外傷傷病者の対応					
7	脊椎・脊髄外傷傷病者の対応				15	皮膚軟部組織外傷傷病者の対応					
8	脊椎・脊髄外傷傷病者の対応										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(前期)⑥				担当教員名				
実務経験等		消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年・2年次に習得した知識・技術が確実に救急現場で迅速・的確に実施することをできるように身につけさせ、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。									
年次	3学年	開講期	前期	種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要		実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。									
到達目標		習得した知識を病院前救護において適切かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。									
使用教材		救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税					評価方法			実技	
授業内容											
1	外傷の現場活動				9	胸部外傷傷病者の対応					
2	外傷の現場活動				10	胸部外傷傷病者の対応					
3	頭部外傷傷病者の対応				11	腹部外傷傷病者の対応					
4	頭部外傷傷病者の対応				12	腹部外傷傷病者の対応					
5	顔面・頸部外傷傷病者の対応				13	骨盤外傷傷病者の対応					
6	顔面・頸部外傷傷病者の対応				14	四肢外傷傷病者の対応					
7	脊椎・脊髄外傷傷病者の対応				15	皮膚軟部組織外傷傷病者の対応					
8	脊椎・脊髄外傷傷病者の対応										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(後期)⑦			担当教員名					
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年・2年次に習得した知識・技術が確実に救急現場で迅速・的確に実施することをできるように身につけさせ、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	3学年	開講期		種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適切かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	消化器系疾患傷病者対応				9	小児の疾患傷病者対応					
2	消化器系疾患傷病者対応				10	小児の疾患傷病者対応					
3	泌尿・生殖器疾患傷病者対応				11	高齢者疾患傷病者対応					
4	内分泌疾患傷病者対応				12	高齢者疾患傷病者対応					
5	内分泌疾患傷病者対応				13	産婦人科傷病者対応					
6	血液・免疫系疾患傷病者対応				14	産婦人科傷病者対応					
7	筋・骨格系疾患傷病者対応				15	精神疾患傷病者対応					
8	筋・骨格系疾患傷病者対応										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(後期)⑧			担当教員名					
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年・2年次に習得した知識・技術が確実に救急現場で迅速・的確に実施することをできるように身につけさせ、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	3学年	開講期		種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適切かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	中毒傷病者対応				9	熱中症傷病者対応					
2	精神薬中毒傷病者対応				10	高山病傷病者対応					
3	睡眠薬中毒傷病者対応				11	減圧症傷病者対応					
4	ガス中毒傷病者対応				12	酸素欠乏傷病者対応					
5	自然毒中毒傷病者対応				13	低体温傷病者対応					
6	家庭用品中毒傷病者対応				14	溺水傷病者対応					
7	覚醒剤中毒傷病者対応				15	まとめ					
8	熱中症傷病者対応										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(後期)⑨			担当教員名					
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年・2年次に習得した知識・技術が確実に救急現場で迅速・的確に実施することをできるように身につけさせ、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	3学年	開講期		種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	心肺停止前の静脈路確保				9	気管挿管から薬剤投与					
2	心肺停止前の静脈路確保				10	多数傷病者対応					
3	心肺停止前の静脈路確保				11	多数傷病者対応					
4	ブドウ糖投与				12	多数傷病者対応					
5	ブドウ糖投与				13	多数傷病者対応					
6	ブドウ糖投与				14	現場活動の基本					
7	気管挿管から薬剤投与				15	現場活動の基本					
8	気管挿管から薬剤投与										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(後期)⑩			担当教員名					
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年・2年次に習得した知識・技術が確実に救急現場で迅速・的確に実施することをできるように身につけさせ、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	3学年	開講期		種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	心肺停止前の静脈路確保				9	気管挿管から薬剤投与					
2	心肺停止前の静脈路確保				10	多数傷病者対応					
3	心肺停止前の静脈路確保				11	多数傷病者対応					
4	ブドウ糖投与				12	多数傷病者対応					
5	ブドウ糖投与				13	多数傷病者対応					
6	ブドウ糖投与				14	現場活動の基本					
7	気管挿管から薬剤投与				15	現場活動の基本					
8	気管挿管から薬剤投与										
特記事項											

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	シミュレーション実習Ⅲ(後期)①			担当教員名					
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、1年・2年次に習得した知識・技術が確実に救急現場で迅速・的確に実施することをできるように身につけさせ、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
年次	3学年	開講期		種別	実習	時間数		単位数		区分	必修
授業概要	実習室及び教室を使用し、1年・2年次に習得した知識や技術を確実に身につけさせ、救急現場におけるメディカルコントロールの重要性と高度な病院前救護処置を的確かつ実践できる能力を身につけ、医療従事者としての自覚と責任を養う。										
到達目標	習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践を身につけさせるとともに、メディカルコントロールの重要性と救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任を養う。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		実技		
授業内容											
1	ビデオ喉頭鏡に必要な知識										
2	ビデオ喉頭鏡の実際と事故対策										
3	気管挿管シミュレーション										
4	気管挿管シミュレーション										
5	総合実習										
6	総合実習										
7	総合実習										
8	総合実習										
特記事項											



学科名	救急救命科昼間課程	科目名	臨床実習			担当教員名			救急 専任		
実務経験等		消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員と医療機関で救急救命士の経験を持つ教員が、習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践を身につけさせるため、救急車同乗実習及び病院実習を実施する。									
年次	3学年	開講期		種別	外部実習	時間数	225時間	単位数		区分	必修
授業概要		各消防本部及び横浜市立大学市民総合医療センター、済生会横浜市南部病院、聖マリアンナ医科大学病院、藤沢市民病院、横浜南共済病院及び湘南鎌倉総合病院での実習。									
到達目標		習得した知識を病院前救護において適確かつ安全に応用できる実践を身につけさせるため、救急車同乗実習及び病院実習について225時間以上を目標として実施する。									
使用教材		救急救命士標準テキスト10版へるす出版18,000円プラス税					評価方法			外部実習先の評価	
授業内容											
1	病院実習					9	病院実習				
2	病院実習					10	病院実習				
3	病院実習					11	病院実習				
4	病院実習					12	病院実習				
5	病院実習					13	病院実習				
6	病院実習					14	病院実習				
7	病院実習					15	病院実習				
8	病院実習										
特記事項		実習回数、実施時間については実習施設の実施形態により異なる。									

学科名	救急救命科昼間課程	科目名	特別講義			担当教員名	黒田 勝美				
実務経験等	消防の救急救命士として救急隊員の経験を持つ教員が、自らの経験を踏まえて過去に出題された問題を中心に行い、その解説を含めて効率よく理解させ国家試験合格を目指す。										
年次	3学年	開講期		種別	講義	時間数	120時間	単位数		区分	必修
授業概要	全60回、国家試験対策を行う。										
到達目標	国家試験合格をめざし、過去に出題された問題を中心に行い、その解説を含めて効率よく理解させる。										
使用教材	救急救命士標準テキスト10版へるす出版 18,000円プラス税						評価方法		特別講義		
授業内容											
1～60	国家試験問題										
特記事項											